平成 28 年度稲城市海外姉妹都市検討市民会議での検討方法について（案）

資料３

市 民 会 議

委員人数

・委員人数：15 人（平成 27 年度）→**17 人**（平成 28 年度）
※公募で海外での生活経験や交流実績等のある市民を２人追加

【主なご意見】
・団体推薦者だけではなく、会議に参加したいという人も、市民から公募することも必要。

会議回数

・５回程度

検討内容

①候補地の選定
②交流事業について
※海外姉妹都市の在り方については平成 27 年度に決定済み（資料４）

※テーマを絞り、調査部会（分科会）で集中審議を行う。
その結果を参考に市民会議で検討を行う。

・交流事業について**決定**
・候補地の**選定**

テーマを絞り
集中審議

結果を報告

候補地が絞られてきた
段階で現地視察を実施

視察結果を検討に反映

現地視察

・委員３人で候補地を視察（随行：事務局１人）

【主なご意見】
・場所が絞られてくれば、一回は視察に行かないといけないので、それは考慮しておくことが必要。
・場所を決める人たちが、誰も行ったことがない所に決める訳にもいかない。

検討結果

提言書

詳細の調査・検討が必要になってくる内容

（１）交流事業について

・目的にあった交流事業について、市民会議の意見から候補事業を絞っていく。
・他市の交流事業について調べ、稲城市での実施可能性を検討
・交流について、具体的な実施手法の検討

【主な意見】
・交流事業の中身をどうしたらいいかを絞り込んで、具体的に話をした方がいい。
・交流事業の中身をどうしたらいいかを絞り込み、候補地を絞り込む必要がある。
・交流の中身をどのように限定するか。稲城市としてどういう分野で交流がしたいのかを検討する必要がある。

（２）候補地について

・海外姉妹都市としての目的達成のため、市民にとって、最も効果的な候補地はどこか。
・目的を達成できる場所はどこか。
・交流事業を実際に実施できる場所はどこか。

例）・治安
・移動時間
・規模
・過去の交流実績、きっかけ、仲介者の有無等
・候補地の概要
・姉妹都市提携の意思　等

【主な意見】
・他市の海外姉妹都市との交流の目的、規模、距離等、提携した理由を調べて、稲城市に参考になるかどうかを検討したらもっとピンとくる
・仲介してくれる方がいないと、現実的な話にならない。
・いろいろな国やまちを調べて、一から検討する必要がある。
・稲城市の海外交流の歴史を整理した上で、進めていく必要がある。
・市民あるいは市民団体と関わりのある海外都市などを洗い出して、そこから絞り込んでいくのが現実的だと思う。

調査部会（分科会）

【主なご意見】
・４～５人の分科会で意見まとめ、それを全体会議の中で発表する形でやると良い。
・全体の会議だと、意見の収拾がつかないので、４～５人くらいのチームを組んで、目的や交流事業、候補地等を検討する場があってもいい。

委員について

市民会議の委員より、選出分野ごとに選出。

会議回数

・３回程度

調査内容

テーマごとに集中審議を行い、その結果を市民会議へ**報告**する。

(1) 交流事業について

(2) 候補地について

【検討期間ついて】
【主なご意見】
行政の方から 28 年度中に決めるというような目標はないのか。（⇒〔行政の回答〕期間については市民会議で決定していただきたい。）

【平成 28 年度予算について】
記載の検討手法を実施できるだけの予算は、調査費として計上済み。なお、本調査費は、金額の枠でとっているため、検討手法や会議の回数等の詳細は、調査費予算の範囲内で変更可能。

（他の調査費の使い方の例）
・専門家を市民会議へ招へいする費用
・先進市を視察する費用